

令和6年度緑の基金事業報告

(第41年度)

令和6年4月 1日から
令和7年3月31日まで

I 森林、林業の啓発と緑化事業

森林や緑は、地球温暖化の防止、局地的豪雨の頻発等に対応した山地災害の防止、生物多様性や景観の保全、環境教育や森林セラピー等による健康づくりの場としての利用、緑豊かで潤いのある日常生活環境の確保など多様な機能を持っており、国民が安全で安心して暮らすことのできるようそれら機能を十分に發揮し得る森林・緑づくりとともに、近年、国内外で取り組みが進められているSDGs(持続可能な開発目標)の達成が求められています。

このため、健全な森林づくり、森林・林業の再生、緑豊かな生活環境づくり等について、県民に正しく理解してもらい、参加を促すための様々な取り組みが必要です。

行政、NPO、地域住民との様々な形での協働を通じて多くの県民の参加を得ながら、地域の実情やニーズにあった森林の整備や身近な生活環境の緑化等に関する実践的活動に重点をおいて事業の推進を図るとともに、これらの事業を推進することで、SDGsの達成にも貢献できるよう努めました。

1 情報誌等による広報、普及宣伝

森林・林業及び環境緑化に対する県民の更なる理解を深めるため、次の事業を実施しました。

(1) 情報誌の発行等

ア 情報誌の発行等

基金業務、森林・林業及び環境緑化等について、県民の理解を深めるため、機関誌の発行、広告の掲載等を行いました。

機関誌の発行「緑の基金」NO.40(10月) 3,000部
「長野の林業」(長野県林業普及協会)広告

イ 緑の情報サービスの推進(ホームページによる情報発信)

当基金が関わる各種行事、森と水の絵本のPR、緑の募金公募事業・地区事業の実施地視察状況、緑の募金の使途報告など、ホームページを用いて情報を発信し、広く県民の森林づくりや環境緑化への実践参加を促進しました。

ウ 森林と水をテーマにした絵本づくり

絵本「木が伝えてくれる物語」シリーズは、子どもたちの心に木を植えるプロジェクトです。一人でも多くの子どもに森や木からのメッセージが届き、未来を生きる心の支えとなり、先人たちが育んできたかけがえのない豊かな森林や自然を引き継いでいきたいという想いから、これまでに9作を発刊してきました。

第10作目『森のくまさん北アルプスのたび②』については、令和6年度末までに発刊し、

この絵本を県内の全小学校、特別支援学校をはじめ、北アルプス地域振興局管内保育園、幼稚園及び安曇野市内全保育園、幼稚園へ贈呈しました。

なお、当該絵本のPRとして木曽郡木曽町にある「木曽おもちゃ美術館」において絵本の常設展示をしているほか、8月の夏休み期間1ヶ月において、緑の募金普及啓発イベント・絵本原画展示会・大型スクリーンを使った「森のくまさん 木曽物語」の読み聞かせ会を開催しました。

2 県民の集い等の開催

(1) 第74回長野県植樹祭の開催

長野県植樹祭は、県民が森林の整備活動に参加する機会をより多く広範囲に提供するため、開催地・日程を分散して開催しており、令和6年度は、2会場散開催で、うち1会場については当基金と共に負担金を交付しました。

(2) 森林教室の開催

これまで森林教室は県植樹祭とタイアップして同日に開催していましたが、家庭募金の激減に係る対応策に基づき、全事業見直しの一環として令和6年度から廃止しました。

(3) 地区緑化推進団体による森林の感謝祭などの開催

緑と水の森林ファンド事業（国土緑化推進機構事業）の助成を受け、地区緑化推進団体の実情に合わせて森林の感謝祭、植・育樹などの体験型行事等を実施しました。

- ・上伊那：「もりもり上伊那 山の感謝祭（表彰、講演、展示）
- ・諏訪：グリーンブック（自然・緑化関係図書を小・中・養護学校へ贈呈）
- ・木曽：みどりの少年団交流集会（活動発表、木工体験、クイズチャレンジ）等

3 講演会の開催等

(1) 緑に親しむ集い

樹木観察や木の実を使った工作など様々なふれあい体験を通じ、県民が森林や森林の恵みに親しむとともに関心を深めることができるよう、県林業総合センターの体験学習施設と共に定期的に森林整備作業、自然観察などを取り入れた様々な体験型の集いを開催しました。

実施状況：年間20回開催 参加者231組387人（うち子ども93人）

- ・観察会（植物・野鳥・昆虫）、木工作、くん製づくり、たき火等

(2) 森林フォーラム

住宅建築等に加え、公共施設や民間施設等の非住宅分野において、木材需要拡大を進める取組やウッドチェンジの取組について、最新の情勢や今後の展望、県内の先行事例を関係者に広く普及することで取組の推進を図るため、「森林フォーラム」を長野県、林業関係団体等と共に開催しました。

開催テーマ「様々な用途での県産材需要の拡大」

開催日 令和7年2月6日（木）

開催場所 塩尻市文化会館（オンライン併用開催）

参加者 約430人

4 森林づくり等実践参加の促進

（1）林業関係等コンクールの開催

林業関係等コンクールを長野県、林業関係団体等と共に実施し、健全な森林づくりや環境緑化等に係る様々な活動や成果を顕彰し、県民の実践参加の促進を図りました。

ア 長野県ふるさとの森林づくり賞及び長野県林業関係ポスターコンクールの開催

森林づくり、森林環境教育などに優れた功績があった方の顕彰や小・中学校、高等学校の児童・生徒への環境緑化思想及び野生鳥類の保護思想の高揚を図るためのコンクールを長野県、林業関係団体と共に実施しました。

・長野県ふるさとの森林づくり賞

森林づくり推進の部

長野県緑の基金理事長賞 1名

森林環境教育推進の部

長野県緑の基金理事長賞 該当なし

・長野県林業関係ポスターコンクール

国土緑化・育樹運動ポスターの部

長野県緑の基金理事長賞 7名

愛鳥週間ポスターの部

長野県緑の基金理事長賞 9名

イ 木工工作コンクールの開催

小・中・特別支援学校の児童・生徒が木に触れあい木を身近に感じ愛着を持ちながら、森林の大切さや役割を学び木の文化を大切にする心を育てるため、身近な木材を活かして自由な発想で創作した木工工作作品のコンクールを長野県木材青壯年団体連合会と共に実施しました。

表彰式 令和6年11月30日（土）長野市エムウェーブ

長野県緑の基金理事長賞 1作品

応募作品数3,511点 参加校数107校

（2）森林環境教育指導者研修会の開催

子どもたちが自然に親しみつつ森林の役割や森林づくりの重要性などについて体験的に学習できるよう、長野県の森林の現状をはじめ、森林環境教育に関する知識や森林に親しみながら理解する手法等の研修会を教育指導者である教職員を対象に実施してきました。

令和6年度は、試行的に長野県みどりの少年団連盟の「みどりの少年団指導者スキルアップ研修」と連携して、スキルアップ研修を教育指導者の参加者の受け皿としました。

5 都市緑化等の環境整備

（1）学校環境緑化モデル事業【国土緑化推進機構・直接事業】

学校環境の緑化を通じて、青少年への森林環境教育を推進することを目的に、小中学校敷

地内及び周辺の環境緑化、環境教育のフィールドの整備（樹木の植栽・芝生化、樹木の手入れ、ビオトープ等）の取り組みに対し助成しました。

令和6年度実施校　・中野市立延徳小学校

(2) 学校林を活用した森林環境教育促進事業 [国土緑化推進機構・直接事業]

学校林を活用して、小中学校の森林環境教育（林業体験活動を含む）を促進するため、森林環境教育を学校と連携して行う団体等に対し助成しました。

令和6年度実施校　・大町市立大町西小学校

(3) 緑の少年団活動促進事業 [国土緑化推進機構・直接事業]

地域単位で活動している緑の少年団等を主な対象として、学習活動等の充実・促進、指導体制の整備、育成会の結成の促進に対し助成しました。

令和6年度の実施団　・豊科南小学校みどりの少年団　・松川村みどりの少年団

(4) 子どもたちの未来の森づくり事業 [国土緑化推進機構・直接事業]

未来の子供たちに豊かな国土を引き継ぐために、小中学校生の「森の学び」を支援するとともに、森林環境教育のフィールドとして地域のシンボルとなる森づくりの取り組みに対し助成しました。

令和6年度長野県緑の基金推薦 1団体　　国土緑化推進機構交付決定 1団体

6 基本財産の運用益

基本財産の運用益については、受取利息収入として当初予算 5,680,000 円を見込んだところ、決算額は 4,953,799 円となりました。

また、昨年度期中に満期償還を迎える後定期預金といっていた 1 億円を、今年度期中に解約し運用替えを図り、愛知県公募公債 1 億円新規購入をし、運用益の確保に努めた。(10 年 利率は 1.395% 購入先：三菱 UFJ モガソスタイル証券)

7 出捐金の内訳

令和6年度末

5 億 8, 986 万 4, 092 円

(前年度よりの増加額) 0 円

〈内訳〉

・長野県 150, 000, 000 円 (25. 4%)

・市町村 123, 000, 000 円 (20. 9%)

・民間 316, 864, 092 円 (53. 7%)

II 緑の募金事業

「長野県ふるさとの森林づくり条例」の基本理念にある「県民の理解と主体的な参加」を念頭に、「緑の募金」運動を積極的に展開し、森林づくりとみどりづくりの大切さの普及啓発に努めました。

4月1日から5月31日までの「緑化推進特別強調期間」を中心に緑を守り育てる緑化意識の向上を図るため、募金目標額を6,400万円に設定し緑の募金活動を実施しましたが、募金実績額は令和5年に比較して1,500万円減の5,441万円余となりました。

これは、市町村で実施していただいている家庭募金のあり方を見直す動きが相次ぐ中で、長野市を含む複数の市町村が新たに令和6年から家庭募金を廃止したため、家庭募金が1,400万円激減したことが主要因となっています。

一方、令和3年度から企業募金の新規開拓を強力に進め、令和5年には前年より148万円増額し、令和6年は500万円程度を確保するなど、着実に推進してきました。

この募金を活用し、地区緑化推進団体への交付金を通じて、県内各地区的実情やニーズに応じた森林の整備、緑豊かな生活環境づくり、次代を担う子供たちの育成などを推進するとともに、緑の募金公募事業を広く周知し、健全な森林づくりや身近なみどり、県産材の利活用、森林環境教育などに係る地域における自発的活動を支援したほか、みどりの少年団が行う森林・環境緑化等の学習実践活動を長野県みどりの少年団連盟を通じて支援しました。

1 緑の募金活動事業

(1) 緑化推進の啓発宣伝

ア 広告、CM等キャンペーン

緑化思想の普及啓発のため、新聞各社への緑化広告の掲載、テレビスポット・ラジオ等によるPRを「緑化推進特別強調期間」を中心に実施しました。

- 新聞広告掲載 4月1日（6紙）
地区緑化推進団体名も併せて掲載
- 市町村広報への掲載依頼（市町村ごとの特徴的な緑化活動を特集記事の掲載）
- テレビ CM 4月1日～5月15日（45日間 民放4局）
- ラジオ CM 4月1日～4月14日（14日間 AM、FM 各1社）

イ 緑の相談

県民の緑の保全、緑化木等への理解と関心が深まるよう、身近な緑化樹木の衰弱や病虫害等樹木に関する相談に対して迅速に対応する相談窓口業務を実施し、樹木医等に委託して初期診断を行いました。

相談窓口 地域振興局林務課

診断委託先 （一社）日本樹木医会長野県支部、（一社）長野県造園建設業協会

ウ 企業等と連携した募金活動

- ・(一社) 長野県環境保全協会の協力を得て、会員企業約 400 社に募金の依頼を行いました。
- ・令和 3 年度から毎年度、長野県 SDGs 推進企業登録制度に新たに登録された企業に募金依頼を呼びかけました。(令和 6 年度は追加登録企業 400 社に募金依頼。累計 2,400 社に募金依頼済)
- ・自動販売機システムでの募金について、設置台数拡大に努めました。また、これまでの自動販売機設置業者 2 社以外の業者（伊藤園）とも打合せを行い、新たな設置業者の拡大にも努めました。
- ・令和 6 年度は、2 団体に対して企業訪問などにより、直接募金依頼を行いました。(一社) 長野県自動車整備振興会は約 2,000 社の会員を、県トラック協会は約 600 社の会員を有しているため、振込依頼書付きリーフレットを作成して、募金依頼を実施しました。

(2) 募金資材の購入

募金活動の効率的な展開を図るため、緑の羽根、オリジナルピンバッジ、ストラップ、募金箱等の募金資材の購入や募金 PR のためのチラシ、家庭募金用封筒の作成等を行いました。

(3) 募金活動の推進

令和 6 年の緑の募金額 6,400 万円を目指に緑の募金活動を行いました。

特に、「緑化推進特別強調期間」を中心に、チラシ、新聞などを利用し広く緑の募金を呼びかけつつ、家庭募金、企業募金、職場募金、街頭募金などの募金活動を県・市町村等行政機関、地区緑化推進団体、みどりの少年団等と連携し、展開しました。

4月 1 日（月） 県庁内で募金の呼び掛け

4月 10 日（水） 長野県林業センタービル内を巡回して募金の呼び掛け

10月 19 日（土） AC 長野パルセイロホームゲームで長野 U スタジアムにおいて、地元少年サッカーチーム、中部森林管理局、長野地方緑化推進委員会、県林務部等の協力を得て街頭募金を実施

10月 20 日（日） ボアルース長野ホームゲームで千曲市ことぶきアリーナにおいて、地元サッカーチーム、県林務部の協力を得て街頭募金を実施

2 公募事業の実施

特定非営利活動法人等緑の募金公募事業の要件を満たす団体が、環境緑化、森林の整備、木材の利活用、野生動物との共生など公益的な活動を推進するために行う事業を公募し、内容を審査の上、交付金を交付しました。

交付対象 15 団体 交付決定額 281 万円 交付確定額 2,780,104 円

3 緑化の推進等

地区緑化推進団体が各地区の実情に応じて計画した対象先・対象事業について、内容を審査の上、交付決定しました。

(1) 森林の整備

森林整備についての県民の意識の向上と理解を深めるため、植栽、下刈、除間伐などの森林整備に要する苗木・作業用具の購入、指導者の謝金、傷害保険等の経費に対して交付金を交付しました。

(2) 森林整備講演会・研修会等の開催

森林づくりの重要性、地球温暖化防止に係る森林の役割等の周知を図るため、各地区で行われる講演会・研修会の開催に要する経費、松くい虫予防活動等に助成しました。

(3) 公園等公共施設の緑化

ア 学校緑化

学校内環境の緑化、学校林の整備等のため、苗木購入、作業用具購入、指導者謝金等の経費を交付しました。

イ 公園等公共施設の緑化

公園、公民館、福祉施設等の公共施設の環境緑化を図るための苗木購入、作業用具購入、指導者謝金等の経費を交付しました。

(4) 苗木の配布

生活環境の緑化や緑に関心を持つもらうことを促進するため、緑化木頒布会の苗木等の購入の経費を交付しました。

(5) 植樹・育樹祭等行事

森林を守り育てる意識の高揚等を図ることを目的に地区緑化推進団体や市町村等で行う植樹・育樹祭等行事の開催の経費を助成しました。

(6) コンクール・表彰等

森林・林業のPR及び緑化思想の普及啓発を図るために各種コンクール及び緑化功労者の表彰式等の開催に係る経費を交付しました。

4 みどりの少年団育成

次代を担う少年たちが、自然とのふれあいを通じて、森林・林業の重要性を理解し、緑を愛し育てる心を養い、人間性豊かな健康で明るく育つよう、県内のみどりの少年団が行う森林・環境緑化等の学習実践活動について、長野県みどりの少年団連盟を通じて助成するとともに、地区ごとの特性・実情に応じて地区緑化推進団体からも少年団に対し活動助成金等を交付する等、みどりの少年団の実践活動及び結成促進を支援しました。

長野県みどりの少年団交流集会を、令和6年8月1日(木)に長野県林業総合センターで開催し約180名が参加しました。

また、みどりの少年団が学習実践活動の機会を確保できるよう、出前講座を開設し支援したほか、30周年記念誌を県内全小中学校、全国の都道府県緑化推進委員会、関係機関に配付しました。

さらに、みどりの少年団指導者スキルアップ研修会を開催し約30名が参加しました。